



全介助の方

旅行事例

全介助の方の旅行



「行けた！」富山へのお墓参り

寝たきりでも旅行へ行きたい

1 日のほとんどの時間を寝て過ごす O さんは、亡き夫のお墓参りに行きたいと強く願っていた。ただ、頼れる身内もなく、旅の実現は難しいと思っていた。ある日、知り合いの弁護士さんがしゃらく旅倶楽部を紹介。かすかな希望が見えた。

お墓参り。一言で言うと簡単かも知れないが、その墓地の状況を把握しなければならない。場合によっては墓地の中で道具を使う必要があり、その許可も取らなくてはならない。

しゃらくスタッフが富山まで足を運び、様々な下見を行いました。そのためのポイントは、出発から帰省までの仮の行程を作り、その中でどんなバリアがあるかを調査すること。特に今回は、次の 2

点に特に注意を払いました。

①お寺の中にあるお墓

コンクリートの段差だらけでした。車いすでお墓の間を通ることはとても難しそうでしたが、せっかくお墓に来たのに仏前で手を合わせる事ができなければ、遠路はるばる足を運んだ旅が全て台無しになります。

②食事場所とホテル

下肢筋力がなく、立位が無理な旅行者の方には、リクライニング車いすでの移動が原則。つまり、車いすが入れない所は、旅行者も行けない事になります。食事は O さんからの要望で、寿司屋をメインで探しました。バリアフリーの寿司屋はなかなかなく、車いすでも入店が可能な寿司屋を探す事にしました。リクライニング車いすはサイズが大

きいため、ホテルは部屋の中にゆったりと動けるだけのスペースが確保されている所であることを最優先に探しました。

仲のよかった昔のご友人に会いたい。それも O さんの願いの一つ。しかし、そのご友人の連絡先がわからないといった状況で今回の旅の企画。二度富山に足を運び、お墓参りの仕方をあれこれ検討したり、ご親戚等にお目にかかって協力を仰いだり。特に、ご友人探しには骨が折れた。真夏の炎天下の中、T シャツが汗で重くなるのを感じながら、やっとの思いで探し出すことができた。

移動中の様々な課題

旅行当日、待ちきれない様子の O さん。介護タクシーで新大阪駅に向かい、サンダーバードで富山へ。久しぶりの長旅に、疲れる事もなく「元気・元気」と口癖のようにおっしゃってくださる。

今回の旅ではリハビリパンツを着用されていたが、移動中は車いす用のトイレでもスペースは十分でなく、大きなリクライニング車いすは全部入り切らなかった。また、列車内の多目的室でも、下肢筋力がない O さんをベッドに移乗する事は難しかった。今回は 2 名のエスコートヘルパーがいたので、一人が膝かけで人工カーテンを作ることで無事に対応することができた。

富山に到着すると、O さん兼ねてからのご要望で、お寿司を食べに。普段はなかなか口に出来ない新鮮なネタのお寿司。持参したアルコールとウェットティッシュで手を綺麗に洗い、江戸前風到手づかみで大好きな大トロ五貫をペロリと平らげる。糖尿病なので、エスコートヘルパーが食事の見守りと抑制をしっかりと行った。

移動中も寝たきりの方の場合、ベッドに横になった状態での介護に十分な場所の確保が難しいため、お寿司屋さんの承諾を得て、リハビリパンツの交換をします。これも事前にお店に確認し、他のお客様がいない時間であればと承諾を得ていたからこそできました。

お坊さんの読経の際も仏前で手を合わせ、無事にお墓参りをすませることができた。このたった 40 分程度のためのコーディネートにも数十時間がかかっているが、それだけの価値は十分あったように思う。

夜は、ご友人とそのご家族がかけつけてくださった。久しぶりの再会。今までにない最高の笑顔。体は動かなくなったけど、心は当時のまま元気だよ、と微笑む O さん。

お部屋に戻ってからは、普段にない動きをしたせいか、汗をかいた。たとえバリアフリールームであっても、お体の状態によっては不十分な事もある。今回も下肢筋力のない O さんには跨ぐ事が難しい浴槽であったため、シャワーのみで汗を流した。また、女性 1 人での介助では難しいため、現地の有資格者にヘルプをお願いし、2 名での入浴介助により安全が確保された。

ベッドも、いつも使用している特殊寝台ではなく普通のベッド。ホテルのマットレスが軟らかく、腰を下ろすと大きく窪む。また、高さ調整も出来ず、ベッドとベッドの間も広くない。O さんにとって、大きな不安を感じる所であり、介助者としても気を張るところだ。

翌日はご実家に帰り、生まれ育った町を歩く。見慣れていたはずの風景も、数日ぶりに見ると不思議



議と新鮮さを感じる。

今回は電車と介護タクシーでのご旅行。車いすでの移動を極力短くしたとはいえ、転倒防止バーのあるリクライニング車いすでの移動は、横断歩道を渡って、歩道に上がる小さな段差でさえ乗り越えるが難しかったりします。リクライニング車いすでの移動は普通の車いすよりも色々な面でずっと難しい事が分かりました。

1泊2日の旅行。いろいろ不安があったが、しっかりと計画をしてさえいれば旅行を十分に楽しむことができる。

帰りのタクシーの中で、「次は北海道旅行に行きたい」とOさん。しゃらく旅倶楽部がしっかりコーディネートいたします。

その他のメモ

介護度 要介護 5

年齢 69 歳

出発地 大阪府大東市

行先 富山県

同行 エスコートヘルパー 2 名
現地で見護師 1 名

備考

- 食事制限あり
- 下肢筋力なし
- トイレは、常に紙オムツだったが、今回はリハビリパンツにて対応。

ご要望

亡き夫のお墓参りに行きたい。仲の良かったお友達に会いたい。

お友達探しは、地域包括支援センター等をあたってものの、一人も見つからず、お客様自身の本家を訪ねて何とか探し当てた。

スケジュール <1日目>

時間	行程
8:10	エスコートヘルパーがお出迎え
9:10	JR 新大阪駅に到着
9:46	JR 特急サンダーバード 15 号に乗車
12:48	JR 高岡駅に到着
13:10	昼食 介護タクシーでご主人様のお墓へ
14:30	お墓参り
15:30	ご主人様の実家を訪問
17:00	ホテルに到着 休憩
18:30	夕食・入浴
22:00	就寝

※午前 0 時、午前 2 時、午前 4 時、午前 6 時に体位交換を行ないました。

スケジュール <2日目>

時間	行程
7:30	起床・朝食
10:00	砺波ロイヤルホテルを出発
11:00	ご実家に到着 タクシーでご実家を出発
12:30	昼食
13:50	介護タクシーで JR 高岡駅へ
14:00	JR 高岡駅に到着
14:31	JR 特急サンダーバード 30 号に乗車
17:30	JR 新大阪駅に到着
17:45	介護タクシーでご自宅へ
18:30	ご自宅に到着
18:50	エスコートヘルパーが帰社